



## 奈良の庭と森蘊の業績

後援：公益財団法人 日本ナショナルトラスト

主催：名勝大乘院庭園文化館

〒630-8301 奈良市高畑町 1083-1

☎ 0742-24-0808

期間 2014年3月1日(土)～30日(日)

入場無料

奈良文化財研究所 文化遺産部

客員研究員 エマニュエル・マレス

### ■<sup>おさむ</sup>森蘊 (1905-1988)

森蘊は日本庭園史の基盤を築いた人物である。森は文献資料の分析だけではなく、現場の厳密な実測と発掘調査にもとづいて研究を進め、学問としての日本庭園史の発展に大いに寄与した。

24歳の時(1929年)に関西を訪れた際に、古都の庭と遺跡をはじめて見物し、深い感銘を受ける。それ以来、庭ひとすじに生きた。47歳の時(1952年)で奈良文化財研究所の建造物研究室長となり、晩年まで奈良に暮らしながら、日本庭園史の研究を進めた。論文・著書・共著など100冊を超える日本庭園に関する著作がある。また、多くの文化財庭園の復元・整備事業を指導し、我々が現在見る庭に与えた影響は極めて大きい。

一方で、研究者としての偉大な業績の影に隠れ、これまで作庭家としての森蘊の業績は注目されてこなかった。森は東大寺、唐招提寺、法華寺など奈良を中心に、60件以上の社寺や個人宅の庭を設計している。この展示では、森蘊が奈良で行なった庭園の修復と作庭の主な仕事を紹介する。

